

## 飛行機模型

特別展「きのうよりワクワクしてきた。」 出展作品 / 上里浩也 作 長さ / 40cm

## はたよしこ

絵本作家 / ボーダレス・アートギャラリー NO-MA ディレクター

金箔を張り込んだ実物そっくりの金閣寺のミニチュアを作るなど、世の中には自分の愛してやまない物を、自らの手で再構築することに執拗なエネルギーを注ぐ人がいる。この飛行機の作者、上里浩也さんもその思いは同じなのだろう。

彼の作品は私にとって衝撃的な魅力を持つ。

それはこの作品の材料が単なる薄っぺらい紙とセロテープだけで作られているからだ。

いまだき大きなホームセンターなどに行けば、あらゆる便利な材料が揃っているというのに、彼は紙とセロテープという、このはかないほどヤワな素材で、

世界中の飛行機をもう一〇年以上も作り続けている。複雑な流線型の機体の中には、やはり紙が機重にも折り畳まれてぎっしり充填されており、ズシリとした手ごたえすらある。この制作方法は彼の独自の考案によるものだ。

上里さんには自閉症という先



天的な脳の障害がある。この障害は他の人とのコミュニケーションが大変困難であり、常に不安な嵐の中に一人立っているような状態、と形容される。彼は少年の頃から父親と飛行機を見に行くのが大好きで、いつの頃からか身辺にある紙を使って作り始めたという。彼にとって、

その時間は自分で決めた自分の方法で、自分を確認できる大切な時間でもあるのだろう。その方法が合理的かどうかは、彼にはほとんど意味がない。彼にとって大切なのは「自分の決めた方法」に忠実だということなのだ。

人は障害を持つことで、深い海の底を泳いで、忘れられていた知恵を汲み上げてくるのだろうか。私たちは豊かで溢れるほどの物の洪水におぼれ、水面に浮いているのが精一杯になっているような気がする。

上里浩也さんの飛行機は鋼にも勝る強さで、光っているように私には見える。